

校長室から

「修学旅行に思う」

3年生が心待ちにしていた修学旅行が、先日無事に終わりました。今年は、東日本大震災が起こり、関東方面でもまだ余震が続いていることもあり、安全を考慮して行き先を北九州に変更しての修学旅行でした。

長崎に着いてすぐに、「長崎原爆資料館」を訪れました。そこで、被爆をされた山脇さんと渡邊さんから、原子爆弾が投下された日の生々しい、悲惨な状況を聞かせていただきました。生徒たちは、お二人の語りに真剣に耳を傾けていました。

戦争は絶対にあってはならないと誰もが感じた貴重な時間でした。今回、長崎に行かなければ聞けないお話でした。今年の3年生は、今までと違う貴重な体験ができたのではないかと私は思っています。思春期にある生徒たちにとって、戦争の怖さを肌で感じ取り、今平和であることへの感謝の気持ちを持たせてくれた今回の修学旅行は、これからの一生の財産になることでしょう。

福井から長崎まで、バスと列車に乗っての長い旅でしたが、その分、ゆったりとした時間のなかで、クラスの友だちとわいわい喋ったり、トランプに興じたりと楽しく充実した時間が流れていたように思います。長崎の夜景の美しさも生涯忘れられないことでしょう。

239名の生徒たちがきちんと規則を守り、三日間を安全に過ごしてくれたことを大いに認め、褒めてあげたいと思うとともに、お世話になった保護者のみなさまをはじめ、多くの関係者のみなさまに心からお礼を申し上げたいと思います。

3年生の大きな行事がひとつ終わりました。彼らは、この旅行を通して、またひとつ大きくなってこれからの学校生活を送ってくれることでしょう。

被爆者のお一人である山脇さんが、最後に生徒にこう語りかけました。「今のみなさんは、夢をもつことができます。ぜひ大きな夢をもってください。そして、その夢の実現にむけて努力をしてください」と。

筆舌に尽くしがたい体験をされた方からのこの言葉には、平和への感謝を忘れずに希望をもって生きよとの、熱いメッセージが込められていると思いました。

平成23年6月13日



長崎平和公園まで、みんなで歩きました。

平和祈念像の前に佇み、皆何を思ったのでしょうか。